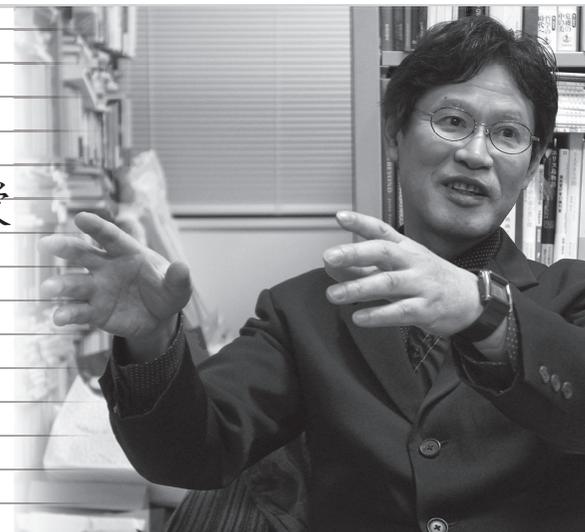


人間・環境研究科・美学

も と あ き
篠原資明 教授

——肩肘張らずに
のびのびと学ぶ——



「あいだ交通論」など独自の哲学を提唱する篠原資明教授。しかし、その講義は「哲学」の響きの堅さからは想像できないほど自由だ。哲学者・篠原資明は、どのように学んでいるのだろうか。

京大教授の
ノートはかならず美しい
学び

某大学の学生はノートがかならず美しい。そんな都市伝説をはしりに「ノート術」や「勉強術」などのハウツー本を書店でよく見るようになった。

しかし、研究の最先端を走る教授のノートを見る機会はなかなか無いだろう。というかそもそも教授はノートを取るのだろうか？ そう思って3人の教授に「ノート」を軸にお話を伺ってみた。新学期に心機一転、学問に打ち込んでみてはいかがだろうか。(猫る餅)

——まず、ノートを取りますか？

ノートらしいノートはここ20年近く取ってませんね。講義ノートも用意したことないですし、研究をノートにまとめることもしません。簡単なメモ書きくらいだったら、そこらへんにある紙をちぎってメモ帳代わりにしてしまいます。そのちぎったメモの方が持ち運びに便利で、いつでも見られますからね。

ノートは取らないけれど、本に直接書き込んだりはしますね。ただ、書き込むと言っても気になるところに下線を引いたり、下線を引くのも面倒くさいときは折り返しを下線とみなすように折ったり……その程度ですね。

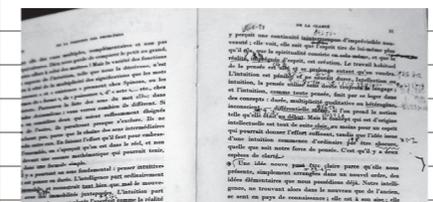


▲下線引きと折り返みぐらいしかされていない

本を執筆するときに考えをまとめる際も、あらかじめ頭の中で整理したものをそのままパソコンに原稿として流し込んでしまいます。僕の場合は細かい言い回しまで頭の中で組み立ててますね。

——では学生時代は？

学生時代ねえ、講義に出たらノートを取るにはしてたけど、そもそもそんなに講義に出なかったからね……(笑)。自習するときもノートには書かずに読んでいた本に直接書き込んでました。



▲単語の意味などが書かれている

主にわからない単語などにマークを付けたりとかその程度ですけど……こうやって見てみると懐かしいなあ。

——学習の際に意識していることは？

難しい質問だねえ……僕の研究内容の性質上、興味の赴くままにのびのびとやるようにしてます。机に向かって本を読むことなんかほとんどありませんね。ソファでコーヒーを飲みながらだったり、ベッドで横になりながらだったり。哲学で新しいことをしようとするなら既存のものに縛られちゃいけないという姿勢

の表れかもしれませんが。でもまあたぶんただ面倒くさがりなだけなので、あんまり真似しないほうがいいかも(笑)。

——学生にアドバイスをお願いします

僕はとにかく面倒くさがりだから方法は真似しない方がいいと思うけど……本で気になる部分があったら何度でも繰り返し考えてみることです。「惹きつけられるけど、ようわからん」っていうところから逃げずに立ち向かうのが大事だと思いますね。

あと最近の子は頭がいいので学習の効率とかを考えるみたいだけど、学問に地図なんてものは存在しません。そもそも効率よく得た知識なんて大した知識じゃないってことに気付いてほしい。たくさん寄り道しながら学べる時間なんてのは大学生の間くらいなんですから、年取った時に「ああ、楽しかったなあ」と思える学び方をしてほしいと思いますね。



▲こんな書き込みしたっけなあ、と篠原教授

はみだし
すてーじ

はみだしちゃった!!
⇒新入生の方に説明させていただきますと、ここは「はみだしすてーじ」というミニコーナーでして、読者カードを使ってちょこっと大喜びみたいなことをするんですが、まあ大したコーナーじゃないんですがほそぼそと狭いスペース(説明がはみだしちゃった!!;編)

(法・1 ウィリアム太郎)

経済学研究科・マーケティング

若林靖永 教授

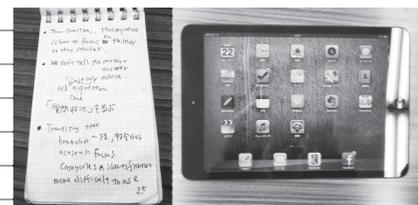
——ノートを取るのって
実は高等技術なんです——

積極的に社会活動も行っている若林教授。その活動や思考の根底には学生時代に培ったノートを取る技術があるという。過去にはノートの取り方を学ぶ講義も行っていた若林教授にお話を伺った。



——まず、ノートを取りますか？

たまにしか取りません。手書きの方が気分が乗るなっていうときにだけ、それも一般的な大学ノートではなく、小さなメモ帳に。分野で使い分けることは無く、全部時系列でまとめてあります。買ったらすぐページ番号を振って、最初のページに目次を付けるっていう工夫をしていますね。



▲愛用のメモ帳とiPad mini

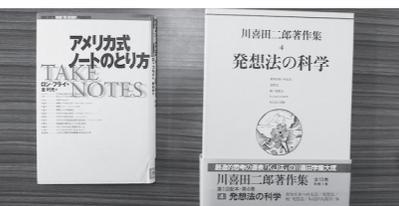
最近はiPad miniを愛用しています。インプットとアウトプットが同時に行えて、スマートフォンやノートパソコンなどの他のデバイスと同期してくれるのがいいです。ただ、つついツイッターやマンガに熱中しちゃうかわらないようにしないといけないのが大変だけだね(笑)。

情報化の現代、情報の信憑性に疑問を持つ人は多いと思います。やはり大切なのは自分の頭で考えることですから、デバイスの形は関係無くなってきている。

ただ、どんなにデバイスが変わったところで、ノートを取るという技術が重要なのは変わらないことだとは思いますが。

——ノートを取る技術が重要とは？

講義ノートを取るときに、一言一句をメモする人はいませんよね。必ず要約するはず。しかし、上手に要約されているだけでは過去の記録に過ぎない。適切に内容が整理されていて、さらに自分なりの考察や疑問、アイデアなど書き入れてこそ、未来の自分のためになる。要約・整理・コメント、この3点が良いノートの条件です。ノートを取るの、実は高等技術なんです。ノートの取り方で一つ学問ができるくらいなんですよ。



▲教授おすすめの学習法に関する書籍

——学生時代どう勉強していましたか？

学生時代に工夫してやっていたのは「抜き書き」かな。本で気になる一節が

あったら、それを一字一句同じように写経するんですね。効率は悪く思えるかもしれないけど、そうすることで筆者のこぼの使い方や文章のリズムごと自分のものにするわけです。あとは期末試験や院試の予想問題を自分で作っては解いてを繰り返したなあ。



▲大量の書籍は分野ごとに棚が分けられている

——学生にアドバイスをお願いします

勉強には好奇心が赴くまま自分のワクワクを追い求める側面と、一方で社会の役に立つとか単位を取るだとかの目的に沿っていく側面とがあります。この矛盾する2つの側面をうまく両立させることが大事なんだと思いますね。

あとバイトはあまりやらなくていいと思いますね。大学を出たらもう嫌というほど働くことになるんですから。大学というところは好きなだけ勉強できるんですから、お金や効率なんてものは無視して学問に打ち込んでほしいですね。

理学研究科・素粒子論

青山秀明 教授

——よく学び、
そして学んでください——

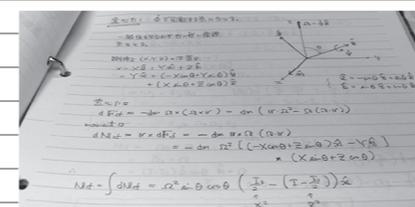
数学者や理論物理学者は、紙と鉛筆だけで研究をしている。そんなイメージをもっている人は多いのではないだろうか。素粒子論の青山教授のノートに対する意識、学びに対する意識を尋ねてみた。



——まず、ノートを取りますか？

理論物理系の人間の中ではかなり珍しいんですが、実は私はノートを取りません。計算するときなんかは近くにある紙に書いてしまいますし、計算の結果もすぐにLaTeXやMathematicaでデータにしていますね。そのほうがすぐに論文に入力できますから。

ただ、今のようにデジタル化が進む前には丁寧なノートを作っていました。自分が学んだ過程を再現させる記録としてのノートなので、コンパクトな形で整理していました。自分で言うのもなんですがなかなかキレイでしょう(笑)。



▲昔の講義ノート。自他ともに認める美しさ

——学生時代に意識していたことは？

とにかくガムシャラに勉強するようにしました。図書館が開いている間は図書館に籠って勉強、図書館が閉まったら自宅に籠って勉強。睡眠時間も限界まで削っ

ていました。そうでもしないと世界を相手にできませんから。

ノートはあまり取らず理解することに重点を置いてました。具体的には教科書を読んで、演習を繰り返すスタンスでしたね。ノートなんて取らないに越したことはないですよ。大事なものは自分の頭で理解していることです。私がよく力学の講義で言っているのは、「手ぶらで無人島に行っても力学を再現できるようになれ」ということです。それくらいの理解を目指してガムシャラに勉強してほしいものです。



▲最近LaTeXとMathematicaが必須だと語る

——教授にとって学びとは？

急に深い質問だねえ(笑) うーん……難しいなあ。とにかく、この無限に大きい宇宙の中の、無限個にも思える銀河系の中のこの小さな惑星である地球の矮小な人間の小さな頭が、無限の宇宙を理解しているということが本当に偉大すぎる

ことだと思わうんですね。極端だと言われるかもしれないけれど、僕はこれこそが人間が人間である理由だと思っています。学ぶこと自体はつらいことだが、それによって為されることは喜び、生きがいとなる。学びこそが人間の存在価値を見出す行為だと、そう思います。教授という仕事はそれで給料がもらえるんですから、自分は本当に幸運だなあ、とつくづく思いますよ。



▲ジャイロ効果の説明に用いる車輪

——学生にアドバイスをお願いします

とにかく勉強してください。よく学び、そして学んでください。日本経済の低迷などの問題を解決していくのは皆さんの世代なんです。他国の学生と日本人学生とを比べるとハングリー精神が違います。せっかく京都大学という世界を相手にできる学び舎にいるんだから、勉強しないのはもったいない。ガムシャラに、たくさん勉強してください。